

STAGE+を楽しむ(90)(HP 収載)  
—チョン・キョンファとショルティ—

1. 始めに

前報(89)に引き続き、STAGE+のチョン・キョンファとショルティの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、チョン・キョンファとショルティの演奏を選びました。

チョン・キョンファも出演、ショルティと手兵シカゴ響によるメンデルスゾーン  
シカゴ・オーケストラホール, 1976年&1979年

収録日: 1979年10月24日

2024年1月1日までの期間限定

第8代音楽監督として20年あまりにわたって手腕を発揮し、ライナー時代(6代目)に次ぐ第2期黄金時代を築いた巨匠ショルティと、そのシカゴ交響楽団による最盛期のメンデルスゾーン演奏をお届けします。三大協奏曲のひとつである「ホ短調」では、当時世界各国で年に100回前後の公演を行い、同時にデッカの録音・セッションにも積極的に取り組むなど、エネルギッシュな活動を展開していたチョン・キョンファが、卓越した技術で情熱的にプレイする姿を存分に堪能できます。

ソリスト:

チョン・キョンファ (ヴァイオリン)

演奏:

シカゴ交響楽団

指揮:

サー・ゲオルグ・ショルティ

曲目:

フェリックス・メンデルスゾーン ヴァイオリン協奏曲ホ短調 op. 64

チョン・キョンファ(ヴァイオリン)

フェリックス・メンデルスゾーン 交響曲第3番イ短調 op. 56 《スコットランド》

フェリックス・メンデルスゾーン 交響曲第4番イ長調 op. 90 《イタリア》



### 3. 試聴の経過

今回も LAN アキュライザーをスイッチングハブから PC への LAN ケーブルに装着して聴いていきます。

オールメンデルスゾーンのプログラムの収録で、お馴染みの曲ばかりです。

ヴァイオリン協奏曲は、若いチョン・キョンファが、高い技量と優れた感性で臆することなく才気あふれる演奏をしています。

交響曲第 3 番《スコットランド》は、スコットランドの荒野の情景を思わせるような表情や民族舞踊のような軽快さから、ふたたび静かな情景から勇壮な雰囲気へと展開します。

交響曲第 4 番《イタリア》は、軽快で明るい出だしから楽章毎に第 3 番と同じように次々とイタリアの情景を写しだしていきます。

ショルティはあまりにもワーグナーの印象が強いので、ロマン派の音楽はどうかと思いつながら聴いていましたが、上記の曲のさまざまな情景を巧みに引き出し、ところどころにショルティらしい豪快な指揮を見せてくれました。

録音年代からして音質はさほどではありませんですが、LAN アキュライザーが加わったことで、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲と交響曲の各プログラムの情景を的確に表現してくれています。



#### 4. まとめ

LAN アキュライザーが加わったことで、メンデルスゾーンの各プログラムの情景を的確に表現してくれています。

以上